

## 第3章 札幌市教育ビジョン

### 1 札幌市の教育が目指す人間像

教育基本法では教育の目的として、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」と示されています。

本計画では、札幌市の教育が目指すべき人格、すなわち「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な姿」を簡潔に表現するに当たり、これまでの「札幌市教育推進の目標」の基本的な考え方は、今後10年を見据えたとしても適切なものであると考え、「札幌市の教育が目指す人間像」を次のとおり掲げます。

# 自立した札幌人

いかに時代が変わろうとも、「人格の完成」に向けては、一人の人間として「自立」することが求められます。

幼児期には遊びを通して、人や自然と豊かに関わり、自分が誰かの役に立っていると感じるなど、自己肯定感や自己有用感を育むことが「自立」への第一歩です。そして、発達段階に応じて、様々な社会体験を通じ、自らの人生を自らの責任で引き受け、一人の人間として生きる自覚をもち、未来に向かって行動することが大切です。

しかし、この自覚は決して、自分さえよければ、といった利己的な考え方や、孤立して生きることを求めるものではありません。他者を自分と同じ「自立した存在」として尊重し、共に支え合いながら生きていくという「共生」の思いを併せもつことが不可欠です。そして、「共生」の対象は、身近な家族や地域の方々をはじめ、世代や性別、国籍、文化の違い、障がいの有無などにかかわらず、同じ時代を生活している世界中の人々、さらには、今の社会を築き上げた先人やまだ見ぬ未来の世代までも含むものです。

また、誰もが、様々な課題を自らの問題と考え、互いの個性や多様性を認め合う寛容さと相互の信頼感のもとで、持てる能力を十分に発揮して積極的に社会参加し、生きる喜びと幸せを感じてほしい、と願うものです。

本計画では、このように、広く、時や空間を超えた他者との「共生」への願いを込め、「共生」と一体となった幅広い意味をもつ「自立」を「自立した」と表現しています。

一方、「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」は、時代の変化に伴って変わるものであり、また、同じ時代であっても、地域の状況によって左右されるものです。

今後、人口減少社会の到来や、生産年齢人口の減少に伴う経済規模の縮小が見込まれる中、これまでの右肩上がりの社会構造を前提とした価値観は大きく変わりつつあり、いわゆるパラダイム<sup>37</sup>の転換が求められています。市民は、都市の活力と生活の質を高めるとともに、先人が知恵と努力で築き上げてきた、この自然豊かで文化芸術の薫り高いまちを、次世代に良好な形で引き継いでいかなければなりません。

37 【パラダイム】ある時代や分野において支配的規範となる「物の見方や捉え方」のこと。

本計画では、このような状況を受け止め、様々な課題解決に果敢に立ち向かっていく資質を有する人間の在り方を「札幌人」と表現しています。札幌の豊かな自然や社会、文化の中で、学び、生活した経験をもつ者が、その恵まれた環境の中で育まれる創造力や豊かな心などの総合的な素養を生かし、ふるさと札幌への思いを心にもち、伝統や文化を尊重しながら、国際的な視野ももって、札幌をはじめ様々な地域や国で活躍する人になってほしいという思いが込められています。

すなわち、「自立した札幌人」とは、

未来に向かって 創造的に考え、主体的に行動する人  
心豊かで 自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人  
ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人

であることを意味します。

## 2 基本的方向性

今後10年を見据えたとき、この人間像を実現するためには、情報化や国際化の進展など社会経済情勢の大きな変化により、知識の多様化や陳腐化が一層進行する状況を踏まえ、学校の卒業をもって学びが終了するのではなく、**幼児期から生涯にわたって学び続ける**ことが必要です。

市民が、自ら生きていく中で学びを主体的に捉えることができるよう、学校教育の段階から、連続した学びの体制を整備するとともに、子ども一人一人の心身の発達の段階と学校や地域の実態を踏まえ、札幌の自然や社会、文化等の豊かな環境を生かしながら、「学ぶ力ー知」「豊かな心ー徳」「健やかな身体ー体」の調和のとれた「生きる力」を育てていくことが大切です。

あわせて、学校教育と生涯学習の学びの垣根を低くして、子どもから大人までの様々な世代が、地域や社会に主体的に関わりながら、共に学ぶ体験を積み重ねるなどして、「共に生きる力」を培うことが重要となります。

こうした「**自ら学び、共に生きる力を培う学び**」を推進することが、「自立した札幌人」を実現するための要といえます。

また、この学びの推進に当たっては、市民が、経済面や地理的・時間的な制約を気にせず、安心して様々な学びにつながるができるよう、学びの場と機会を保障する観点が必要であり、「**多様な学びを支える環境**」を充実させる必要があります。

加えて、教育が人と人との関わりの中で進められる営みであることを踏まえると、真に、この人間像を実現するためには、日々展開される様々な学びを通して「社会が人を育み、人が社会をつくる」という好循環を生み出すなど、実際に回り始める「仕組み」を作り上げることが大切です。

例えば、世代や立場などが異なる様々な市民が、学びを仲立ちとして出会い、そこでの学びが人と人とのつながり、いわゆる地域コミュニティ<sup>38</sup>の形成、活性化へとつながり、さらに、この地域コミュニティが核となって、次なる学びの深化が図られるということなどが想定されます。このように、「**市民ぐるみで支え合う仕組み**」を作り上げることで、一人一人の生涯にわたる学びと実践の循環が生まれ、ひいてはまちづくりの活力の源となります。

38 【地域コミュニティ】地縁、血縁、文化的背景、価値観などに基づく共同体のうち、地縁的な要素の大きいものこと。

そして、こうした環境の中で育ち、成長した世代が、自然体で次世代と学びを支え合うようになり、世代間の循環につながることも期待されます。

以上を踏まえて、今後10年間で「自立した札幌人」を実現するため、以下の三つの基本的方向性から教育施策を展開していきます。

## 自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進 多様な学びを支える環境の充実 市民ぐるみで支え合う仕組みづくり

これらの基本的方向性は、それぞれが独立しているのではなく、環境の充実や仕組みづくりによって学びが推進される一方、学びを進めていく中で環境の改善や仕組みを見直す必要性が生まれるなど、相互に関連しているものです。

### 基本的方向性1 自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進

#### 《背景》

変化が激しく、一層複雑化する社会にあっては、与えられた情報を短期間に覚え、正確に再生する力だけでなく、身に付けた知識や教養と、それらを生かした柔軟な思考力を発揮して、新しい価値を創造したり、個人や社会の多様性を尊重しつつ、異なる他者と協働したりする能力等が求められています。

また、多様な知識が次々に生み出され、急速に流通していく中、一律の正解が見いだされないような課題が複雑に生起しており、自分が社会にどのように貢献しているのかを感じづらくなってきています。そのような中にあるのは、自己肯定感を高めるとともに、自分の夢を描きつつ、自己の実現に向けて意欲的に取り組もうとする心を養うことが必要です。

そして、生涯にわたり、自分に必要な知識や能力を自ら認識し、それらを身に付け、他者との関わり合いや実生活の中で活用し、実践できるような主体的・能動的な力が必要とされています。

#### 《展開の考え方》

本計画では、市民一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続けることができるよう、学校教育と生涯学習における縦の接続と横の連携を強化し、「自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」を図りながら、「自立した札幌人」として必要な資質や能力を育みます。

そのために、幼児期から初等中等教育段階（小学校から高等学校まで）の学校教育においては、「**学ぶ力**—知」「**豊かな心**—徳」「**健やかな身体**—体」の調和を図りながら「**生きる力**」を育むため、主体的に学ぶ意欲につながる「**自ら学ぶ喜び**」や、孤立することなく他と関わりながら自立しようとする意欲につながる「**共に生きる喜び**」を、それぞれ実感できるような教育を推進していきます。

あわせて、どこにあっても、ふるさと札幌への思いを心にもち、国際的視野をもって活躍できるよう、自らのアイデンティティーとしての「**ふるさと札幌のよさ**」を実感しつつ、「**豊かな創造力を育む**」教育を推進していきます。

また、生涯学習の観点からは、子どもから大人までの市民が、自ら学ぶことや相互の学び合いを

支援・促進することを通じて、学びを媒介とした人と人とのつながりや支え合いの豊かな関係性を創出するとともに、学びの成果を地域や札幌のまちづくりに生かすなど、継続的・自発的な学習活動を支援する総合的な施策を推進していきます。

そして、これらの教育施策の展開に当たっては、途切れることのない一貫性・連続性のある学びを実現するための学びの場の連携が大切です。また、共生社会の形成に向けて、障がいのある方々の自立と社会参加を目指し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援を行う特別支援教育の推進を図っていきます。

## 基本的方向性2 多様な学びを支える環境の充実

### 《背景》

子ども一人一人の能力を伸ばしつつ、社会において自立して生きる基礎を培うに当たっては、安心して学ぶことができる学校教育の環境整備は不可欠であり、また、生涯学習社会における豊かな学びを実現するためには、多様な学びの環境が整備されることが基本的に保障されなければなりません。

### 《展開の考え方》

「自立した札幌人」の実現に向けて、基本的方向性1「自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」を行うに当たっては、市民一人一人が、多様なニーズに応じた学びの機会を得ることができるよう、各成長段階での良質な教育の機会の保障の観点から、「**多様な学びを支える環境の充実**」を図ります。

そのために、まずは子どもの学びの中心である学校において、安心して信頼される体制づくりに努めるとともに、自然環境や機能性などにも配慮した安全・安心な施設整備等を行っていきます。

あわせて、札幌市全体の子どもの学びを支える観点から、豊かな質の高い教育環境の構築を行っていきます。

生涯学習の観点からは、あらゆる市民に生涯にわたって学ぶ機会を提供できるよう、多種多様な学習活動を支える生涯学習関連施設や図書館などの充実を図ります。

また、環境整備は、施設・設備を中心とする側面だけではなく、子どもに対する様々な支援体制などの側面も必要となります。

子どもにとって学校での身近な存在である教職員については、個々の教育指導の意識や技術などの資質・能力を高めるとともに、それを十分に発揮し、子ども一人一人に寄り添い、健やかな成長を支えていけるような取組を充実させていきます。

さらに、いじめや不登校をはじめ、様々な要因により学校での学びに不安や悩みを抱える子どもが安心して学べるよう、子ども一人一人の状況に応じた支援体制を構築します。

## 基本的方向性3 市民ぐるみで支え合う仕組みづくり

### 《背景》

人口減少と少子高齢化が進行し、社会への参加意識の低下や人間関係の希薄化などの課題が指摘される一方、東日本大震災を契機に地域コミュニティの重要性が見直されている中において、学校・家庭・地域がそれぞれの教育力を高め、共に手を携えていくことがますます重要となっています。

現在、札幌市では、年間1万5千人を超える市民が様々な形でボランティアとして学校の教育活動に参画するとともに、子どもが地域の活動に参加する取組も進められています。今後より一層、

学校・家庭・地域が実効性のある双方向の連携を図り、学びを通じたコミュニティの形成を積極的に進めていく必要があります。

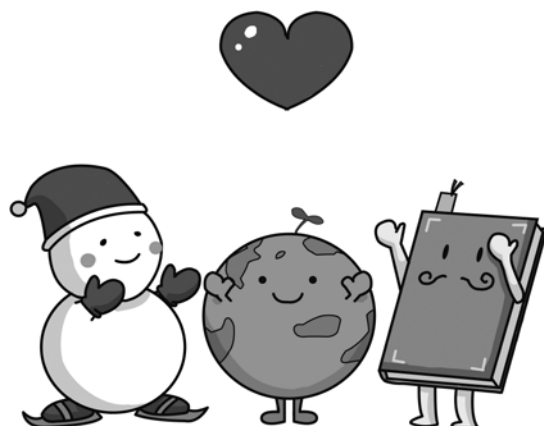
### 《展開の考え方》

「自立した札幌人」の実現に向けて、基本的方向性1「自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」を行うに当たっては、市民一人一人が、学びを仲立ちとして相互に連携・協力するとともに、この関係性が市内各所で定着して学びのコミュニティが形成されるよう、「**市民ぐるみで支え合う仕組みづくり**」に取り組みながら、全ての市民が「自立した札幌人」として必要な資質や能力を高めていくことが大切です。

そのために、地域の潜在的な教育力を発掘し、商店街や企業などを含む地域の方々の学校教育への参画を促すとともに、子どもの地域活動への興味・関心を高め、参加を促進する環境整備を進めるなど、学校と地域が相互に結びつき、支え合う仕組みを整えます。

また、家族形態や社会構造の変化に伴い、家庭の教育力が低下している中、全ての家庭が子どもの育ちや学びを支える主体の一つとしての意識を高め、力を付けていく必要があります。

さらに、地域や学校が、支援を必要とする家庭を支える仕組みづくりに取り組むことで、家庭の教育力の一層の向上を図り、社会全体で子どもを支えていくことができるよう努めます。





## 3 札幌市教育ビジョンの全体像

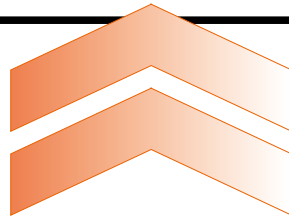
## &lt;札幌市の教育が目指す人間像&gt;

## 「自立した札幌人」

未来に向かって 創造的に考え、主体的に行動する人

心豊かで 自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人

ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人



## &lt;基本的方向性&gt;

